

< 運営推進会議における評価 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 恒和会	事業所名	看護小規模多機能サンリンク
所在地	(〒742-0032) 柳井市古開作 479-3		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

1. 安定した稼働率の維持
2. 働きやすい職場の実現
3. 法人理念を理解し、実践する
4. ゆうわ総合サポートセンターの役割の理解と事業所としての実践

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 12 月 20 日	従業者等自己評価 実施人数	(12) 人	※管理者を含む
----------------	---------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2024 年 3 月 21 日	出席人数 (合計)	(8) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input checked="" type="checkbox"/> 自事業所職員 (2 人) <input checked="" type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (〃 人) <input checked="" type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (4 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (〃 人) <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (〃 人) <input type="checkbox"/> その他 (〃 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	看多機らしいケアの提供（看取りや医療度の高い利用者様のケア）を行い、職員のケアの質の差を小さくし、家族に寄り添ったケアを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・泊りの受け入れなど積極的に行い、家族の要望に応じていく ・医療ニーズが高い利用者を中心に登録を行い、ケアを実施する ・介護、看護の連携し、統一したケアの提供を行う ・積極的に研修に参加し、職員のケアの差を少しでも埋める 	<ul style="list-style-type: none"> ・急遽の泊りでも受け入れてもらっている。 ・実際に看取りを行い、家族に寄り添うケアができたが、まだ完璧とは言えず更なる支援体制の整備が必要。 ・看取りや痰吸引など、必要な研修の充実が必要。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様 1 人 1 人に対し、アセスメントを行い、職員や家族、本人と共有し、ケアを提供する。 ・介護・看護職が協力し、情報共有を行い、家族に対し、指導や状況の説明を行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・24 時間の暮らしに着目したアセスメントを行い、それを軸にケアを提供する ・介護計画、看護計画で各々の職種がアセスメントに携わる ・家族、本人に対して、アセスメントから作成した計画を伝え実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護、看護職がそれぞれの観点からアセスメントを行う事ができ、本人にあったケアを提供することができた。 ・職員同士の情報共有が不十分なことがあるという意見があったので、両職間の情報共有ができるようしっかりと話し合っしてほしい。 ・自己評価は概ねできていると思う。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・病院や Dr との連携を密に行い、円滑な在宅生活の移行に繋げる。 ・どんな状況でも即座な対応ができるような体制を整え、対応できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・退院、退所前カンファも参加し、情報の共有を行う ・緊急時の状態報告を確実に行う ・24 時間オンコールなど対応ができる体制を築く 	<ul style="list-style-type: none"> ・主治医との連携はできており、円滑な在宅生活に繋げることができた。また緊急時も迅速に報告を行い、緊急搬送などに繋げる事ができた。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員であることを自覚し、運営推進会議などで課題提起や改善策の提案を行う。 ・「痰吸引」や「人工呼吸器」を必要とする利用者様を受け入れる体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を実施し、提案など、こちらから情報を発信する。 ・痰吸引、人工呼吸器を使用している利用者に対応できるような体制を築く 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の実施はでき、会議録の作成もしている。今後は更なる情報開示をお願いしたい。また地域住民に向けた啓発活動も力を入れてほしい。 ・喀痰吸引等研修を受けた介護士もおり、さらに体制が整いつつある。
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全安楽な療養生活、以上の早期発見を計画に入れ、実施する。 ・看多機らしいケアの提供を行い、看取りに対して安心感を得られるようなケアの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理解がなかなかできない家族もいるので、家での療養生活や看取りに対して、安心感を得られるような説明やケアの提供を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアの提供やその説明など、家族や本人が理解するまで丁寧に行い、信頼感を得ることができた。すべての利用者に安心感を与えられる対応をお願いしたい。 	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・泊りの受け入れなど積極的に行い、家族の負担軽減に繋がった。 ・医療ニーズが高い利用者様を優先して登録し、看多機らしいケアの提供ができた。 ・介護、看護の連携はできているが、職員によって理解度の違いがあり、統一したケアの提供まではできなかった。また、普段の業務もあり、積極的に研修を受けられなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・看多機らしいケアを継続して行っていく、更に本人や家族の負担軽減になるよう工夫していく。 ・職員の能力の差がどうしてもあり、ケアの統一が難しい場面もあった為、研修を積極的に部署内でも行い、参加できるような体制を築き、能力の差を埋めていく。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間の暮らしに着目したアセスメントを行っており、それを軸にケアを提供できている。また、介護計画、看護計画で各々の職種がアセスメントに携わっているが、情報の共有が不十分などところがある。 ・家族、本人様に対して、アセスメントから作成した計画を伝え、実施し、さらに本人様にあったケアの実施ができた。 ・職員によりアセスメントに繋がる情報収集の能力に差がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護、看護職員それぞれが協力し、引き続きアセスメントや計画作成を行っていく。 ・情報の共有が不十分な部分や、情報収集の能力に差が見られたので、できている職員ができていない職員に教える事ができるような体制を築く。また、研修なども行っていく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・連携はしっかりできている。退院、退所前カンファも参加できていて、情報の共有ができている為、円滑な在宅生活の移行に繋がっている。 ・緊急時に看護師から医師に状態の報告ができている。 ・24時間オンコールなど対応ができる体制を築いているが、全てにおいて即座に行動できているとはいえない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も退院、退所前カンファに参加して、円滑な在宅生活の移行に努める。 ・緊急時等、24時間対応できる体制を今以上に築き、もっと利用者や家族が安心して在宅でも過ごせるようにする。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議は行っており、会議録の作成もしているが、提案など、こちらから発信するところまではできなかった。 ・痰吸引に対しては介護職にも有資格者がいるも24時間の体制が完璧とはいえず、人工呼吸器に対しては不安がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員という事を自覚し、運営推進会議などでこちらから情報や提案など発信できるような関係性を築く。 ・喀痰吸引等研修を一人でも多く受けてもらい、体制をより強固にする。 ・人工呼吸器を使用している利用者の体制を築く
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に計画にいれ、達成できた。 ・理解がなかなかできない家族に対してもしっかりと説明を行い、家での療養生活や看取りに対して、安心感を得られるようなケアに繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も看多機について理解が乏しい利用者や家族がいると思われる為、どの職員でも寄り添い、丁寧な説明を行う事ができるようになる。 	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します